

## 東京トラウトカントリー溪流フライ教室

2010年2月7日（第3回）分の補足資料

担当：宮崎 俊太

### 実釣の補足

- 極低水温な状況でドライフライへの反応がほぼありませんでしたが、ドライフライ（ミジジ）で浮いているトラウトを根気よく狙って釣り上げたNさんがいらっしゃいました。釣り方を見ているとトラウトのほぼ真上からダウンストリームに、かつフライから先に流すキャストを繰り返していました。スラックが入ったキャストイングも釣果に通じるものと思いました。
- ウエイトド・ニンフを流れに馴染ませるように沈める時、ラインをメンディングしたりループコントロールしてスラックを作ってフライを早く流れに馴染ませる、流れるコースを修正するなどすると効果的な場合があります。
- ドライフライの釣りもニンフフライの釣りもほんの僅かキャストイングポジションを変えるだけで新たなチャンスが生まれる場合があります。また、同じポイントでもサイド、アップ、ダウン etc とポジションを変えフライを変えてみる（=釣り方を変えてみる）と新たなマイポイントが見つかると思います。
- シンカーを付けたラインをキャストするコツはフォルスキャストをしないで、大きく胸を開くように後方を確認しながらの**一回のバックキャストで振り込むよう**にポイントへキャストするとライントラブルを防ぐことが出来るでしょう。

第2回の補足も併せてご覧いただきますとより参考になると思います。今回のアフターフォローは以上です。

